

## 大学・研究者が教育現場との連携を考えるとときの、ひとつの構え

白石 陽一

### 1. なぜ、理論と実践の結合（融合、連携、往還）を「スローガンとしてだけ・むきだしに」語ってはならないのか

- (1) <あたりまえ>のことを力説していると、他者に対して抑圧的になる
  - ・ 具体策を提示しない、責任を取らない、潔くない
  - ・ 自分を安全地帯において、他人を批判する
  - ・ あたりまえの中身を判断する基準はつねに強者がにぎっているがゆえに、他者に対して抑圧的になる
- (2) <あたりまえ>のことしか言わないと、考える営みが衰退する
  - ・ 「心の闇」といってしまえば、それ以上考える努力をしなくなる
- (3) <あたりまえ>のことしか言わない風土では、言語に対する信頼が低下する
  - ・ 言葉とは通貨のようなもの、信用がある — 流通する — 価値がある
- (4) ある人が語る言葉が「そう」であるならば、その人に見える現実も「そう」である
  - ・ 使う言葉が変わらないと、現実の見え方も現実への働きかけ方も変わらない
- (5) 「統一」のし方だけ、理論の「内実だけ」を説得的に語ればよい。それ以外は無駄である
  - ・ 無駄なことを自覚しないと創造性が低下するし、無駄なことを送りつけるのは相手に対する敬意を失する
- (6) 空虚な言い方の例
  - ・ これからはアクティブラーニングの時代だ、双方向性、対話型、探求型の授業が大事だ
  - ・ これからはチーム学校でいく
  - ・ 授業づくりと学級づくりが実践の両輪だ
  - ・ 学校と地域と保護者と行政の連携が大事だ
  - ・ 使命感と教育的愛情が基本だ

### 2. 教育理論は実践家に「届いている」のか

- (1) 理論・研究者・大学は信用されていない、という前提にたつ
  - ・ 現場は、表面上は祭り上げて、内面的に離反する
  - ・ 共同研究での提言は文脈依存的・具体的であれ、という原則を充たさない発言がある
  - ・ 一般論だが、対話を阻む口調に含まれるメッセージとして、たとえば、
    - <〇〇の視点がない（ないものねだり）>：私はよく知っている、私を尊敬せよ
    - <文科省によれば大事なことが7つあります>：上から目線、あなたの代わりは他にいる
    - <質問を嫌う・遮る>：相手にわかってもらおうという懸命の説得がない
- (2) しかし、事実の重み（具象性）に信を置くという実践家の〈矜持・根性〉がみられない場合もある
  - ・ 実践家においても、具体的に話すときには責任を伴う、潔さが必要
  - ・ 臨場感がある話にはストーリー性がある
  - ・ ストーリー性があるということは、方針と省察がある。

- ・方針と省察があるからこそ、子どもの事実の断片が記憶の網にかかる
- (3) 理論(家)はくたちどまって>省察し、実践(家)はくいま・ここで>決断する
- ・両者が対立することを前提にして議論しないと、<なあなあ>になるか<物別れ>になるか

### 3. 教育学(教育方法学)の理論は、どう「役立つ」のか

- (1) 科学とは自然科学である、技術はテクノロジーであるという誤解、偏見
  - ・この誤解こそ、歴史的構築物である
  - ・教育するという営みは技術(技術的行為)である
- (2) 理系は「短期的」に役立つが、文系は「長期的」に役立つ
  - ・理系の知は目的遂行的な知であり、文系の知は自明化している目的と価値そのものを疑う。  
「鬼畜英米」「高度成長」「グローバリズム」は期間限定
  - ・価値の変化を見定めるためには長期的なスパンが必要である。
  - ・文系学問の役割である「批判(的思考)」は、「公共的」であることと不可分である
- (3) 社会科学の実践性とは、言語的⇌政治的实践のことをさす
  - ・状況を定義するという実践
  - ・<何が語られているか>よりも<だれが語っているか>
  - ・「言語論的転換(転回)」という現代思想
  - ・パワハラ、セクハラ、アダルトチルドレン、過労死、体罰、玉砕
- (4) 技術学の特質
  - ・法則と規則のちがい、経験値と定石をつくる
  - ・熟練、熟達につながる指針を  
<鉛筆を削る、自転車に乗る>、講義を受けて、本を読んで、できるようになるか?
- (5) 「高度な平凡性」(斎藤環)の継承
  - ・精神科治療、臨床医学からの提言・良識・良心、先駆性  
華々しい「エビデンス」もカタカナや外国語がものものしく並ぶ「流行語」もないが、これなくしては治療そのものが成り立たない技術と作法が蓄積されている
- (6) 「技術の理論」が役立つとは何をさすのか
  - ① 個々の技術をていねいにとりあげて、その意味を説明する  
ある程度の体系、順序性をもたせながら  
語る、ほめる、問う  
合意する、自治する、決める、遊ぶ
  - ② 発達論、社会状況との関数で指導を構想する  
貧困、発達障害、ビジネスモデル(ビジネス用語)の教育界への浸透
  - ③ 典型事例をとおして指導観を問う  
<受験に負けない>学力・授業  
<無言掃除>への対応  
「多忙化」への対応  
・若手、中堅、ベテラン・指導的立場のちがいや  
管理的、平穏、寛容、リーダーがいる、など学校の事情をふまえて意見する
  - ④ 思想的なもの、授業観や子ども観の転換  
技術が飛躍的に伸びるために、実践家の脱皮、若手の成長